

【第2分科会】大崎上島町立大崎上島中学校

『読書習慣の定着と読書活動の活性化を目指した取組

～本と人をつなぐ環境づくりを通して～』

提案者 大崎上島町立大崎上島中学校

I はじめに

本校は、離島、大崎上島に位置する生徒数92人、学級数5（特別支援学級2学級含む）の小規模校である。司書教諭や学校図書館司書補助員（週1回）を中心に、図書委員会と連携し、環境整備や図書館運営を行っている。しかし、学校図書館を利用する生徒は固定化されており、読書習慣が定着している生徒も限られている。将来、情報収集や楽しみの一つとして図書館を活用し、読書によってよりよく生きていくことができるよう、本が手に取りやすい環境をつくるとともに、学校図書館や本を活用した授業、読書活動を通して、読書の良さを実感させる必要があると考え、取り組んだ。

II 取組の概要

(1) 図書委員会を中心とした取組

- ・学校図書館内外の図書コーナーの設置
- ・各学年週1回の学校図書館での朝読書の実施
- ・読み聞かせや図書委員会便りの作成等の取組
- ・毎月の読書アンケートの実施・活用

(2) 地域と連携した取組

- ・地域の方による読み聞かせ（すずらんの会）
- ・郷土資料の収集・展示
- ・公立図書館と連携した図書館資料の貸出

(3) 授業等での活用

- ・「大崎上島学」（総合的な学習の時間）
- ・他校の中学生とのオンラインによるビブリオバトル（国語科）
- ・特別支援学級・SSR・部活動等

III 協議したい内容

- ・図書委員会の活動や地域と連携した取組について
- ・中学生に有効な読書活動活性化の取組について
- ・「1人1台端末」等のICT環境下での学校図書館や本の活用について

IV 成果・課題

- ・取組によってこれまで学校図書館を活用していなかった生徒が本に親しむ機会となり、生徒の1人当たりの年間貸出冊数が約9冊から12冊に増えた。
- ・取組の中で学校図書館にどのような図書館資料があるかを教員が知ることで、総合的な学習の時間や特別支援学級の授業、SSRでの活用につながった。
- ・オンラインによるビブリオバトル後のアンケートでは、「ビブリオバトルが本を読むきっかけになったという生徒が87.5%と肯定的であった。
- ・読書活動は充実してきているが、読書習慣の定着は依然として生徒による差が大きい。

V おわりに

本と人をつなぐために、学校図書館内にとどまらない本に親しむ環境づくりを通して、読書習慣の定着と読書活動の活性化を目指した取組をこれからも進めていきたい。